



『小さな町からの希望』 (要旨) 聖書箇所：マタイの福音書2章1節～6節

【1】小さな町ベツレヘム

ヘロデ王が君臨する時代、東の方からやってきた博士たちは、ユダヤ人の王誕生の場所をヘロデに尋ねました。王は祭司長や律法学者に「キリストはどこで生まれるのか」(マタイ2:4)と問いました。彼らは聖書の預言を調べ「ユダヤのベツレヘムです」(マタイ2:5)と答えました。彼らが引用したミカ書は、ベツレヘムを「あまりにも小さい。」(ミカ5:2)と形容します。この「小さい」という形容詞は、「量」ではなく「質」を表します。他では「若くて…弱く」や「取るに足りないもので…蔑まれて」と関連して出てきます(参照：士師記6:15,詩篇119:141)。一方マタイの福音書の著者マタイは、ベツレヘムを「決して一番小さくはない」(マタイ2:6)と形容します。ベツレヘムはユダ部族の町々の中で「あまりにも小さい」と言われる町でしたが、キリスト誕生後には「決して一番小さくはない」と形容されたのです。首都エルサレムを初め、城壁で守られるほどの大きな町々がアッシリヤやバビロンに包囲され攻め滅ぼされたのに対し、その近くに位置しながら大国から相手にされなかったのがベツレヘムです(ミカ5:1-2)。人が注目しない「小さな町」。預言者はその「小さな町」から救い主が出現すると預言しました。最も「小さな町」が、最も卓越した方をもたらすようになるのだと言うのです。

【2】人の目には小さく見えても

大国アッシリアとバビロンが見向きもしなかったベツレヘムですが、旧約聖書の歴史上は意義深い場所でした。

①ヤコブ(イスラエル)の妻ラケルの埋葬地：ヤコブの最愛の妻ラケルが、生まれて来る子どもの命と引き換えに自分のいのちを失い葬られた場所です(参照：創世記35:16-19)。

②ボアズとルツの結婚の地：ベツレヘムは、ルツが姑のナオミに従いモアブの野を離れて移り住み、ボアズと結婚し、そしてイエス・キリストの系図に名を連ねるようになった地です(参照：ルツ記1:18-19,2:1-4,4:9-11)。ナオミにはエリメレクの名を残せる人が一人もいなくなってい

ました(ルツ1:1-5)。ところが、エリメレクの親戚ボアズが、エリメレク家の全てを「買い取って」ルツと結婚し、その子どもによって、エリメレクの名を残したのです。その舞台がベツレヘムでした。この「買い戻し」は、新約聖書で明らかにされた神様による私たちの「買い戻し」(参照：Iコリント6:20)の象徴と言われます。このボアズとルツの間に生まれた子がオベデで、オベデの子がエッサイ、エッサイの子がダビデ。キリストはこのダビデの子孫として生まれました。③ダビデの生まれ故郷：このベツレヘムはダビデの生まれ故郷で、彼が神様によってサウルの次の王に任命された場所です(参照：Iサムエル16:1,6-13)。ダビデの父エッサイは「ベツレヘム人」と呼ばれていました。エッサイの7人の息子の末弟であるダビデが王に選ばれたのは意外なことでした。外で羊飼いの仕事をしていたダビデは、人々の目から見て候補者ではありませんでした。そのダビデが王として召し出されたのがベツレヘムでした。

▷人の目には一見、何の価値もないような小さな町ベツレヘム。しかし旧約聖書と新約聖書を繋ぐ意義深い出来事を思い起こさせる町です。

【3】小さな町からの希望

博士たちがエルサレムに訪れた際「ユダヤ人の王」はヘロデでした。「大王」と呼ばれるようになった彼の政治手腕は相当なものでした。エドム人(マキ1:4)でありながら、ローマの信任を勝ち取り「ユダヤ人の王」に任命されました。権謀術数に長け、大建築工事を実施し、エルサレム神殿の大改修工事も行いました。この世の目から見れば、ヘロデは「大王」と呼ばれるにふさわしい実績を残しました。しかし彼は、晩年に猜疑心から王妃と3人の実子を反逆罪によって処刑しました。そして、「ユダヤ人の王」がベツレヘムで生まれると聞いた時、「大王」でありながらひどく動揺したのです。

▷博士たちが来るまで、ベツレヘムに注目する人はいませんでした。しかし神様はそうした小さな町を心に留めておられました。「あなたは…決して一番小さくはない」(マタイ2:6)と。